

よび技術の  
 つて経営お  
 う自覚を持  
 の将来を担  
 ある。業界  
 の皆さんで  
 いる青年部  
 くこの場に  
 は、まさし  
 していくの  
 行動を起こ  
 して実際に  
 な課題に対  
 るさまざま  
 界が直面す  
 るさまさま  
 して実際の  
 行動を起こ  
 していきの  
 は、まさし  
 くこの場に  
 いる青年部  
 の皆さんで  
 ある。業界  
 の将来を担  
 う自覚を持  
 つて経営お  
 よび技術の

**全青会 第14期役員**

役職	役員名	所属ブロック(県)
会長	中原 稔	近畿(奈良)
副会長	成澤 則充	北海道
〃	守谷 悟	中国(岡山)
監査	小泉 学	関東(神奈川)
〃	金原 正典	中部(静岡)
会計	池田 和隆	関東(東京)
理事	成澤 克志	東北(山形)
〃	岡本 雅靖	北陸(福井)
〃	渡邊 裕士	四国(徳島)
〃	馬場 友幸	九州(佐賀)



第14期役員

テーマを掲げて意見交換を  
 行う。さらに全構協との情  
 報交換も積極的に行い、業  
 界のベクトルを合わせて活  
 動を推進す  
 る。

議事終了  
 後には米賓  
 を代表して  
 全構協の米  
 森会長があ  
 いさつに立  
 ち「全構協  
 は、今年を  
 行動の年と  
 したいと考  
 えている。  
 そして、業  
 界が直面す  
 るさまざま  
 な課題に対  
 して実際に  
 行動を起こ  
 していきの  
 は、まさし  
 くこの場に  
 いる青年部  
 の皆さんで  
 ある。業界  
 の将来を担  
 う自覚を持  
 つて経営お  
 よび技術の

とにも取り組んだ「高力ポ  
 ルト孔の加工をレーザー  
 で」「開先防錆塗料を塗った  
 完全溶け込み溶接における  
 プローホール発生を抑える  
 」の研究目的や履歴、その  
 成果などを発表。このう  
 ち高力ポルト孔のレーザー  
 孔あけ加工については、今  
 年1月に改訂されたJAS  
 S6に条件付きで盛り込ま

**■ 研修会**

最後に「ファブリケ  
 ータの経験で得た加工  
 技術・ノウハウを数値  
 化して記録に残し、公  
 にする事で対外的な  
 説得力を持たせること  
 ができる。組織として  
 の力を使って、皆さん  
 がやりたい方向の提案  
 を実現する努力をして  
 ほしい」と呼びかけた。



清水教授が講演

れ、その関  
 連図書であ  
 る鉄骨工事  
 技術指針・  
 工場製作編  
 に同研究結  
 果が参考文  
 献として取  
 り上げられ  
 ていること  
 を紹介した。



乾杯で開宴



『田植えやし』が披露された



懇親のひとつ



伊藤実行委員長が次期全国大会の概要を説明

この全国大会は、全青会  
 が92年に発足して以来、全  
 国9ブロックの持ち回りで  
 毎年開催しているもの。中  
 国ブロックでの開催は99年  
 から開催された。

この全国大会は、全青会  
 が92年に発足して以来、全  
 国9ブロックの持ち回りで  
 毎年開催しているもの。中  
 国ブロックでの開催は99年  
 から開催された。



写真で振り返る  
 全青会 第27回全国大会IN・広島  
 4月21日 広島国際展示場

**■ 通常総会**

当日午後3時30分からは  
 われた第27回通常総会では  
 冒頭、稲森会長があいさつ  
 に立ち、「第13期は親会か  
 らの助成金と冠がなくなら  
 なかでスタートを切った。  
 この2年間で多くの会員の  
 皆さんと青年部の存在意義  
 について語り合い、そのな  
 かで全青会の役割を、少な  
 くは直すことができ、少し  
 つではあったが改革を行う  
 ことができた。結果的にこ

の危機がわれ  
 われを強くし  
 た。このこと  
 は組合にとつ  
 ても業界にと  
 つても、また  
 社業にとつて  
 も良い影響を  
 与えるものと  
 確信している。  
 これからも皆  
 さんがスクラ  
 ムを組み、多  
 くの絆を深めてい  
 くことを願ってい  
 る」と話し、



全青会出席者



中原新会長

稲森会長

任期2年間の  
 会員の協力を  
 感謝の言葉を  
 述べた。  
 議案審議で  
 は、任期満了  
 に伴う役員改  
 選で第14期の全国理事  
 を承認。会長に中原稔  
 氏(奈良県)、副会長  
 に成澤則充氏(北海  
 道)と守谷悟氏(岡山  
 県)を選出した。なお、  
 役員数は前期14名だっ  
 たが、今期は規約の定  
 数内で減員し、全国9  
 ブロック各1名に会計



全構協・米森会長

担当者を加えた計10  
 名体制へとスリム化  
 を図った。  
 新年度事業は、  
 「信頼と絆」鉄骨バ  
 カへの「一本道」をスロー  
 ガンとし、会員連携のさ  
 らなる強化、関連情報の  
 確かつタイムリーな発信・  
 共有に努める。連携強化に



全国の青年部代表者約300名が参集



来賓出席者

# 全青会 恒例の全国会長会議開く 4時間にわたり方向性など討議

全国鐵構工業 青年部連合会は4月21日、広島国際会議場に全国の青年部会長を一堂に集め「全国会長会議」を開催した。全国各都道府県青年部との連携および意思疎通の強化を図る目的で、年に一度の通常総会に合わせ定期的に開催しているもの。午前10時から昼食をはさんで午後3時まで、実質4時間にわたり、全青

会活動の方向性などについて活発に議論を交わした。冒頭、稲森一博会長が「より多くの議題について、より深く皆さんと意見を交わしたいとの考えから、今回は開始時間を早めた。この会議が各県会員の一助となり、各都道府県やブロックの垣根を超えた交流へとつながることを期待する」とあいさつした。

引き続き、今年度からスタートする第14期の運営方針が発表され、役員数を13期の14名から10名に減員し、理事会の開催数は年5回から4回に削減、さらに理事

業等の情報配信の検討⑤欠陥サンプルの保管、貸出しの受付⑥鉄骨110番の運営方法の検討——などに取組んでいくことが発表された。

点で考える生産向上にむけて」の両テーマについて意見を交わした。全国大会については「年に1回の開催は必要」との意見が大勢を占め、その理由として「全国の仲間との貴重な交流の場であり、仕事のやりとりに発展していく事例もある」などの意見が聞かれた。また同大会が各ブロック持ち回りで行われていることについては「準備の過剰でブロック間の結束が深



テーブルに分かれてグループ討議

当初步想を大幅に上回る150万円以上の資金が集まり、全青会では市側の意向も踏まえて車いす22台などを購入した。全国大会では研修会終了後に贈呈式が行われ、第13期の稲森一博会長が広島市の社会福祉協議会事務局長に目録を手渡した。これに対して協議会側から全青

このほか全青会から各ブロックに対し、全青会理事とブロック会長の兼務を推進するよう要望があった。その後協議に移り、7つのテーブルに分かれてのグループディスカッション形式で「全国大会」「若い視

「若い視点で考える生産向上にむけて」は青年部の今年度意見交換の共通テーマとすることを前提に討議し、さまざまな意見が出るなか①人材確保②若手の意識改革——を採択した。このほか、全国9ブロックによる過去1年間の活動報告などが行われた。

## 全青会13期が社会貢献活動 全国で溶接用チップ・ノズル収集 広島市に車いすなど贈呈

全青会 国大会の席で、収益金で、第13期(16、17年度)市に贈呈した。この活動は、全国の青年部会員に溶接用チップとしておよびノズルの収集・交換金を求め、その収益金を、今回の全国大会開催地である広島市の社会福祉貢献に充てることを目的に企画した。昨年12月から今年2月末までの限られた実施期間ながら、全国の会員の全面協力により



贈呈式のもよう

全青会では市側に感謝状が贈られた。なお、贈呈先は広島市社会福祉協議会並びに障害支援施設となる。全青会ではこれまでにも、慈善団体への寄付を前提としたオリジナルテレホンカードの販売や、海外で換金可能な使用済みテレカの収集、献血活動を行うなど、全国レベルで数々の社会貢献・ボランティア活動を展開してきた。

全青会ではこれまでにも、慈善団体への寄付を前提としたオリジナルテレホンカードの販売や、海外で換金可能な使用済みテレカの収集、献血活動を行うなど、全国レベルで数々の社会貢献・ボランティア活動を展開してきた。

全青会では市側に感謝状が贈られた。なお、贈呈先は広島市社会福祉協議会並びに障害支援施設となる。全青会ではこれまでにも、慈善団体への寄付を前提としたオリジナルテレホンカードの販売や、海外で換金可能な使用済みテレカの収集、献血活動を行うなど、全国レベルで数々の社会貢献・ボランティア活動を展開してきた。